

## Ⅱ 結果の概要

### 第1部 循環器疾患に関する状況

#### 1. 主な疾患の既往歴

医師から「脳卒中」といわれたことがある者の割合は、男性5.7%、女性3.3%であり、平成12年に比べて男女ともその割合は増加している。

医師から「心筋梗塞」といわれたことがある者の割合は、男性2.7%、女性0.9%、「狭心症」といわれたことがある者の割合は、男性3.8%、女性2.8%であり、男女とも平成12年に比べてその割合は変わらない。

表1-1 医師から脳卒中といわれたことがある者の割合(30歳以上)(平成12年と22年の比較)

	男性				女性			
	平成12年		平成22年		平成12年		平成22年	
	対象者数	%	対象者数	%	対象者数	%	対象者数	%
総数	3,813	4.0	3,314	5.7	4,472	2.2	3,829	3.3
30-39歳	676	0.4	561	0.2	795	0.0	620	0.3
40-49歳	769	0.8	564	1.4	879	0.2	618	0.5
50-59歳	918	2.2	601	3.3	1,060	1.2	682	1.3
60-69歳	824	5.7	803	8.1	855	2.6	897	3.9
70歳以上	626	12.1	785	12.2	883	6.8	1,012	7.6

表1-2 医師から心筋梗塞といわれたことがある者の割合(30歳以上)(平成12年と22年の比較)

	男性				女性			
	平成12年		平成22年		平成12年		平成22年	
	対象者数	%	対象者数	%	対象者数	%	対象者数	%
総数	3,801	2.4	3,314	2.7	4,451	1.1	3,830	0.9
30-39歳	676	0.3	561	0.0	794	0.1	620	0.0
40-49歳	768	0.8	564	0.4	877	0.2	618	0.2
50-59歳	917	1.9	601	1.3	1,051	0.8	683	0.1
60-69歳	817	2.4	803	2.9	857	0.9	896	1.0
70歳以上	623	7.5	785	7.0	872	3.4	1,013	2.3

表1-3 医師から狭心症といわれたことがある者の割合(30歳以上)(平成12年と22年の比較)

	男性				女性			
	平成12年		平成22年		平成12年		平成22年	
	対象者数	%	対象者数	%	対象者数	%	対象者数	%
総数	3,764	3.7	3,313	3.8	4,406	3.0	3,829	2.8
30-39歳	675	0.1	561	0.4	793	0.3	620	0.2
40-49歳	766	1.2	564	0.7	873	0.8	617	0.0
50-59歳	905	3.1	601	2.3	1,043	2.6	683	1.3
60-69歳	809	5.4	803	4.0	836	4.5	897	3.3
70歳以上	609	9.4	784	9.3	861	6.5	1,012	6.5

## 2. 高血圧の状況

収縮期血圧の平均値は、男性133.9mmHg、女性126.2mmHgであり、拡張期血圧の平均値は、男性82.4mmHg、女性77.0mmHgである。いずれの値も平成12年に比べて変わらない。  
 高血圧症有病者の割合は、男性60.0%、女性44.6%であり、平成12年に比べて男性は増加しているが、女性は変わらない。

図1-1 収縮期(最高)血圧の平均値(30歳以上)(平成12年と22年の比較)

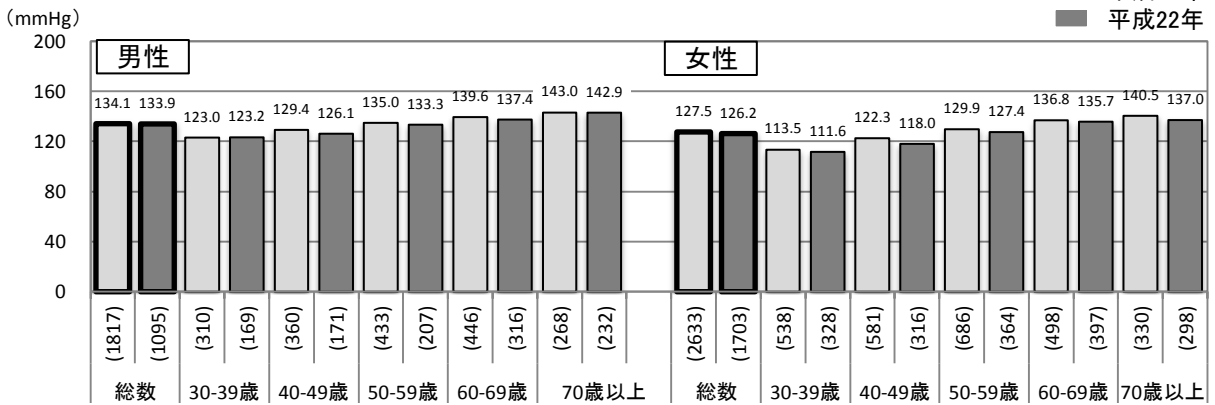
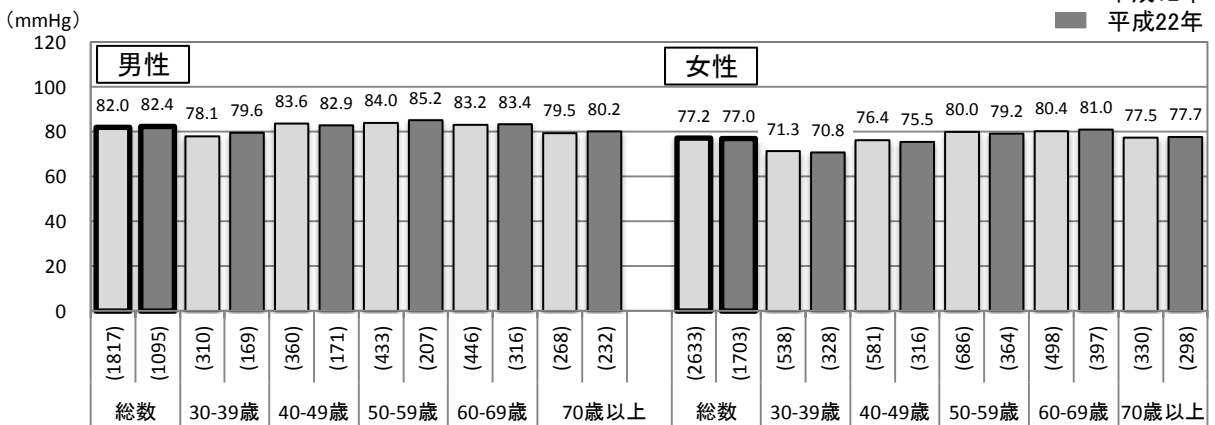
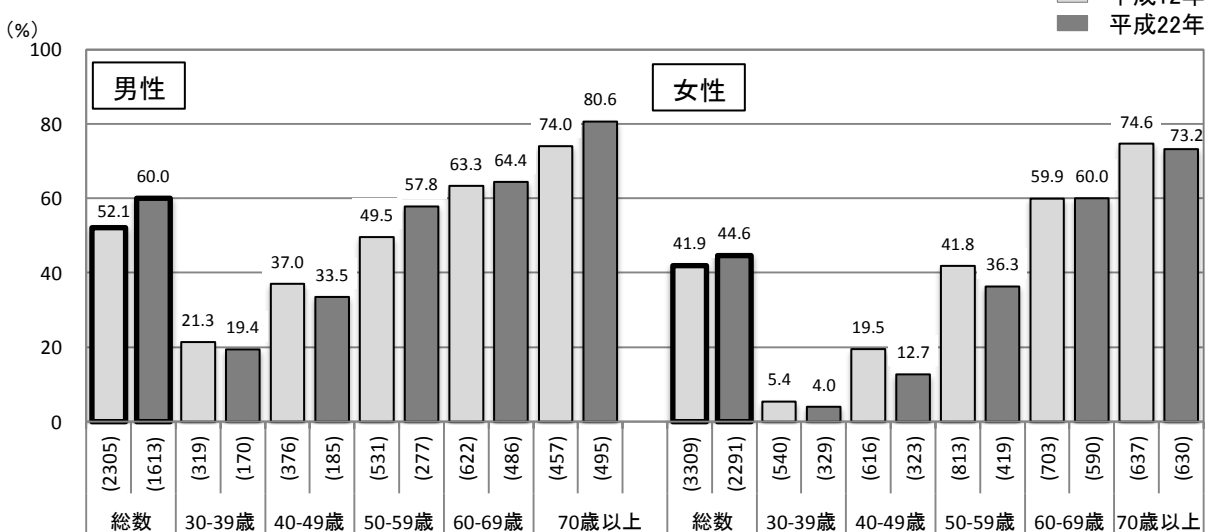


図1-2 拡張期(最低)血圧の平均値(30歳以上)(平成12年と22年の比較)



※2回の測定値の平均を用いた。1回しか測定できなかった者については、その値を採用した。  
 ※妊婦除外、血圧降下薬服用者除外

図2 高血圧症有病者の割合(30歳以上)(平成12年と22年の比較)



▼「高血圧症有病者」の判定▼

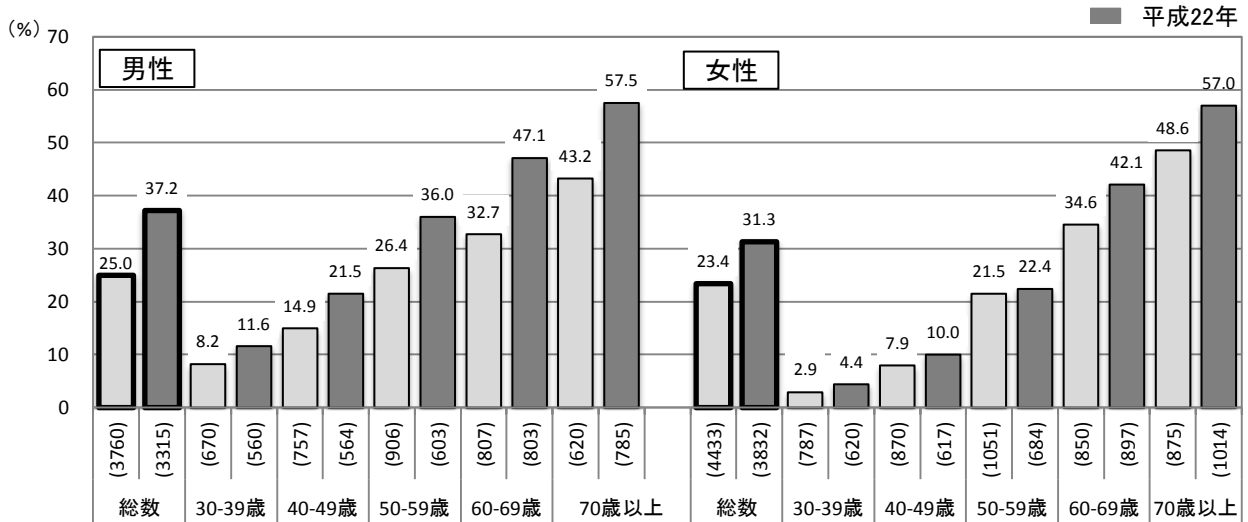
・収縮期血圧140mmHg以上または拡張期血圧90mmHg以上、もしくは血圧を下げる薬を服用している者。

### 3. 高血圧といわれたことがある者の状況

医療機関や健診で「高血圧」といわれたことがある者の割合は、男性37.2%、女性31.3%であり、平成12年に比べて男女とも増加している。

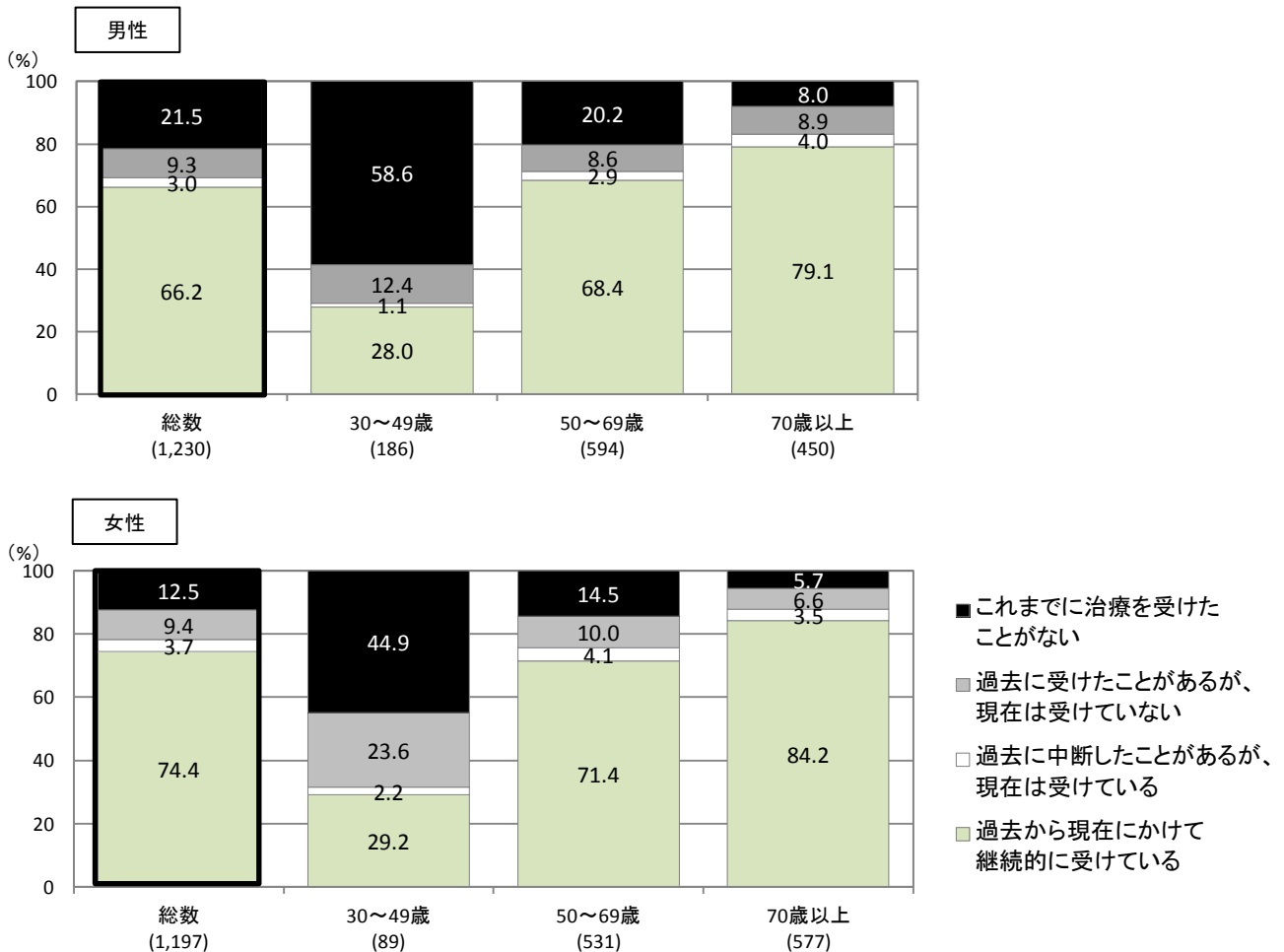
また、高血圧といわれたことがある者のうち、過去から現在にかけて継続的に治療を受けている者の割合は、男性66.2%、女性74.4%である。

図3 高血圧といわれたことがある者の割合(30歳以上)(平成12年と22年の比較)



※平成12年については、医師から高血圧と言われた者の割合

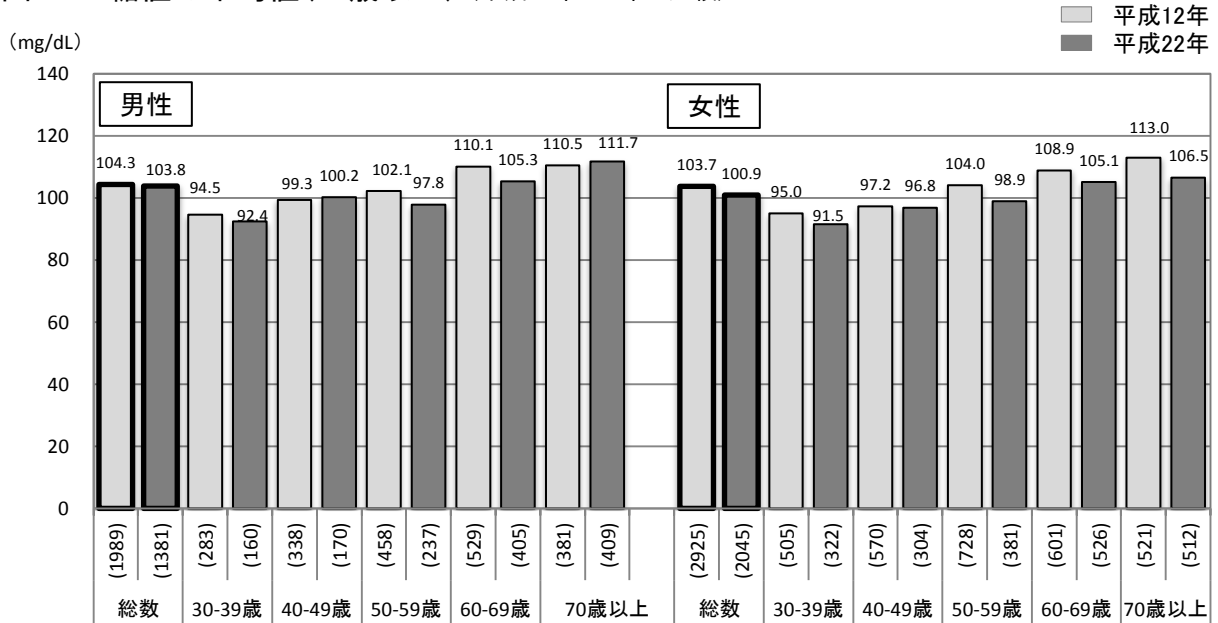
図4 高血圧といわれたことがある者における、治療の状況(30歳以上)



## 4. 高血糖の状況

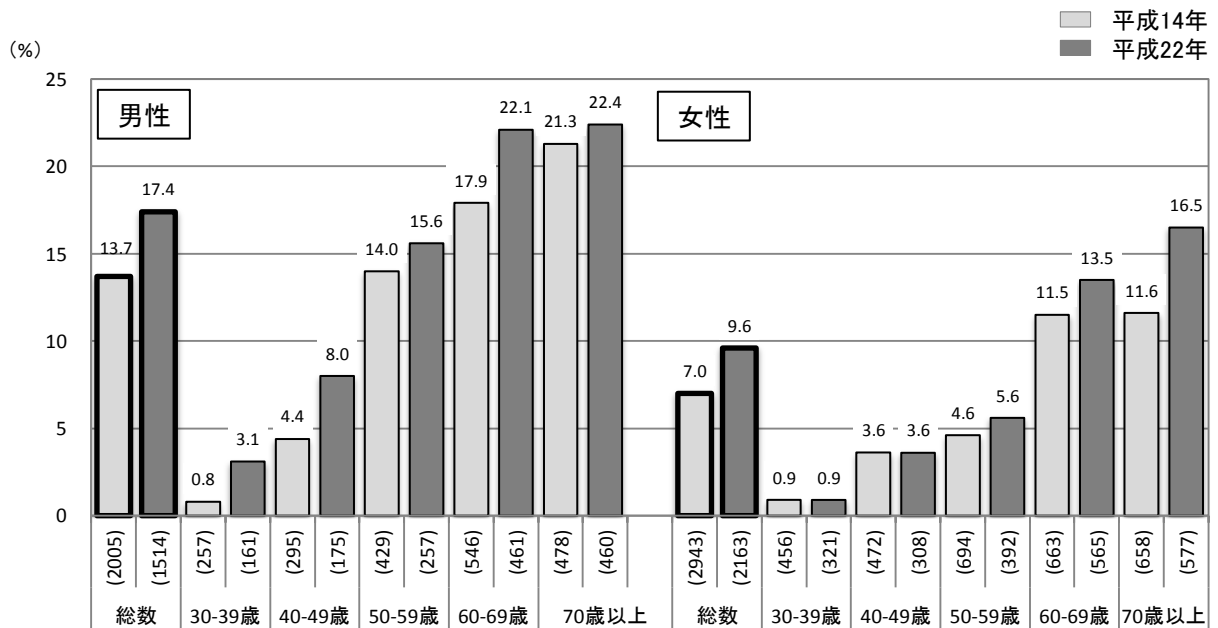
血糖値の平均値は、男性103.8mg/dL、女性100.9mg/dLであり、平成12年に比べて男性では変わらず、女性では低下している。  
 糖尿病が強く疑われる者の割合は、男性17.4%、女性9.6%であり、平成14年に比べて男女とも増加している。

図5 血糖値の平均値(30歳以上) (平成12年と22年の比較)



※食後時間によらず  
 ※インスリン注射または血糖を下げる薬服用者除外

図6 糖尿病が強く疑われる者の割合(30歳以上) (平成14年\*と22年の比較)



▼「糖尿病が強く疑われる者」の判定▼  
 ・ヘモグロビンA1cが6.1%以上、または、質問票で「現在糖尿病の治療を受けている」と答えた者。

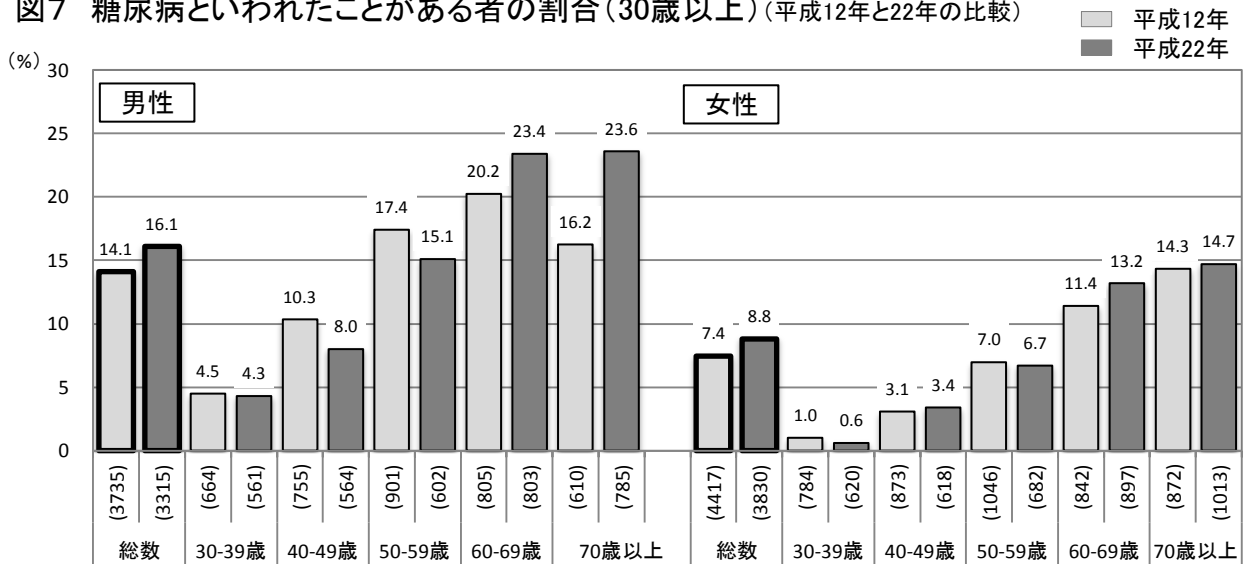
\* 平成12年調査時に当該項目を把握していないため、平成14年糖尿病実態調査を用いている

## 5. 糖尿病といわれたことがある者の状況

医療機関や健診で「糖尿病」といわれたことがある者の割合は、男性16.1%、女性8.8%であり、平成12年に比べて男女とも増加している。

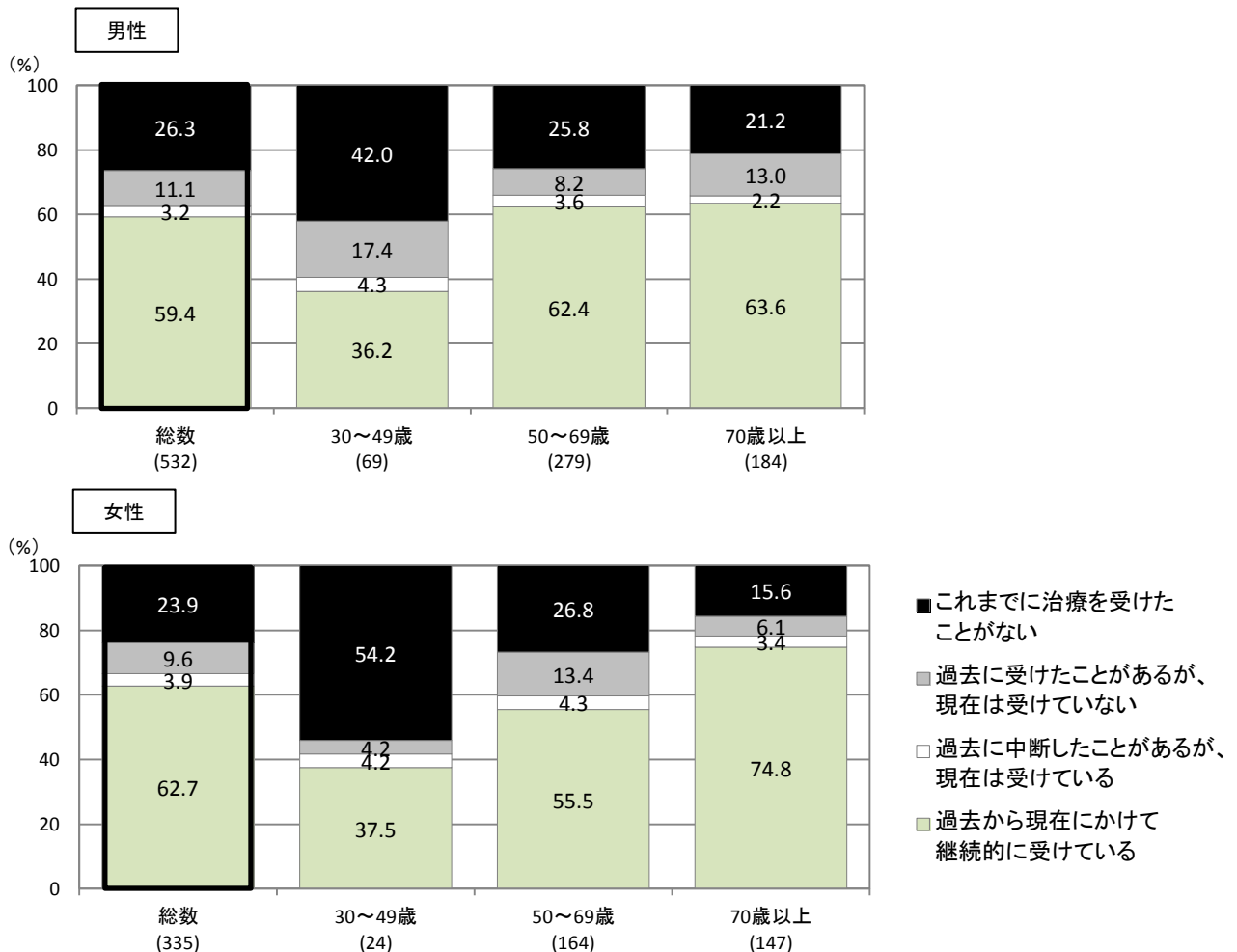
また、糖尿病といわれたことがある者のうち、過去から現在にかけて継続的に治療を受けている者の割合は、男性59.4%、女性62.7%である。

図7 糖尿病といわれたことがある者の割合(30歳以上)(平成12年と22年の比較)



※平成12年については、医師から糖尿病と言われた者の割合

図8 糖尿病といわれたことがある者における、治療の状況(30歳以上)

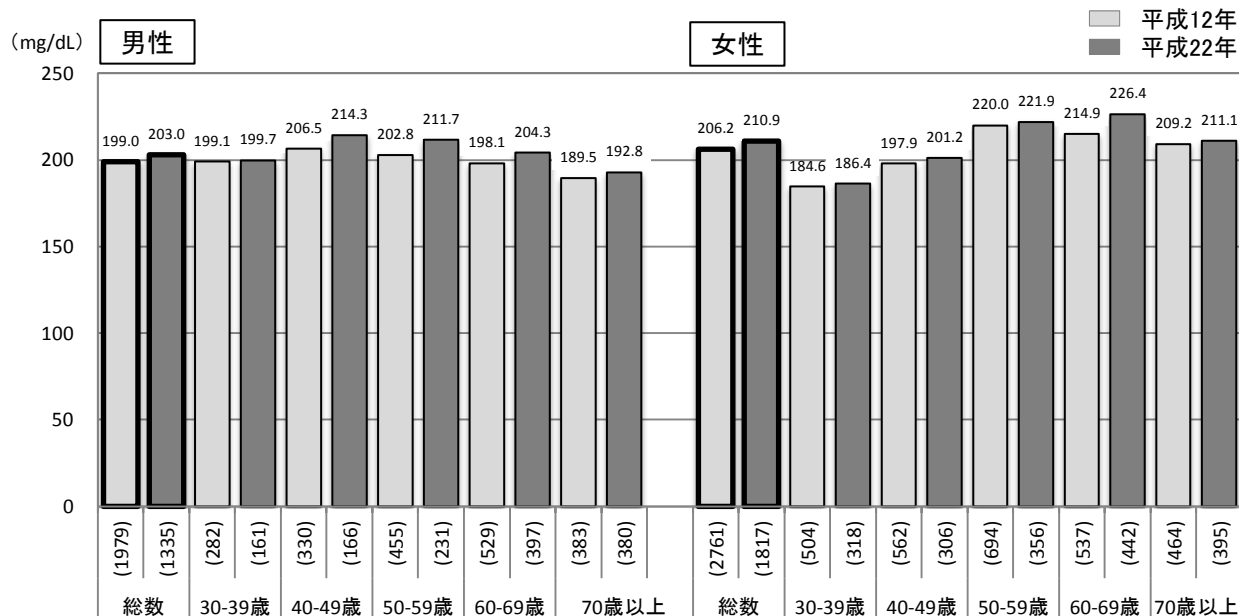


## 6. 高コレステロールの状況

血清総コレステロールの平均値は、男性203.0mg/dL、女性210.9mg/dLであり、平成12年に比べて男女とも増加している。

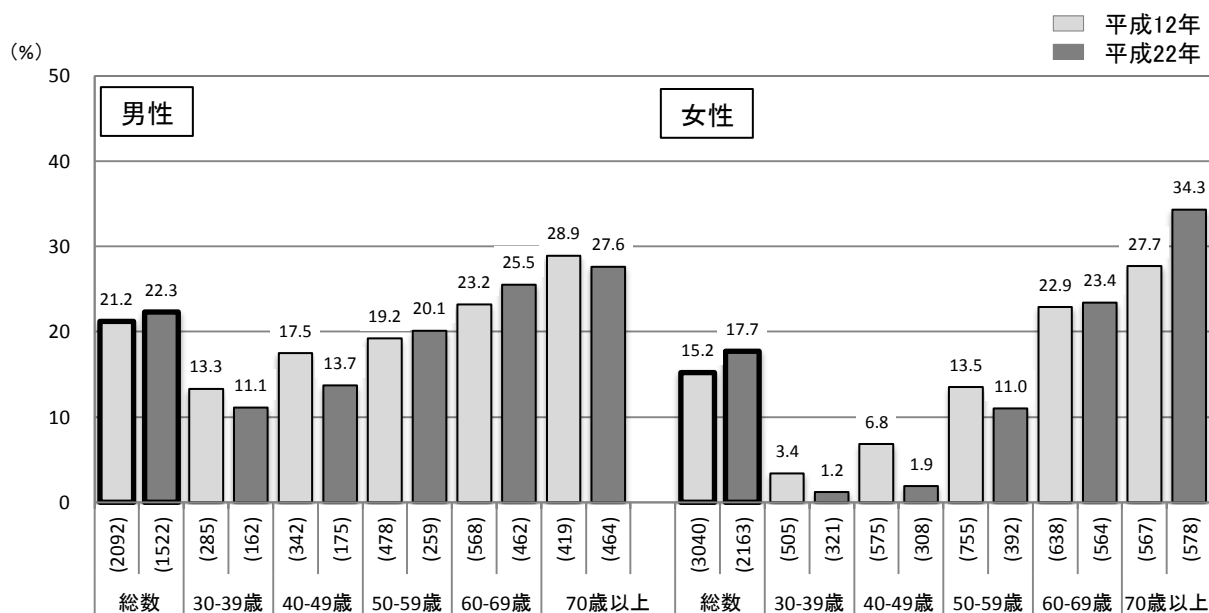
脂質異常症が疑われる者の割合は、男性22.3%、女性17.7%であり、平成12年に比べて男性は変わらないが、女性は増加している。

図9 血清総コレステロールの平均値(30歳以上)(平成12年と22年の比較)



※コレステロールを下げる薬服用者除外

図10 脂質異常症が疑われる者の割合(30歳以上)(平成12年と22年の比較)



▼「脂質異常症が疑われる者」の判定▼

国民健康・栄養調査の血液検査では、空腹時採血が困難であるため、脂質異常症の診断基準項目である中性脂肪による判定は行わず、下記の通りとした。

・HDLコレステロールが40mg/dl未満、または、「コレステロールを下げる薬」を服用している者。

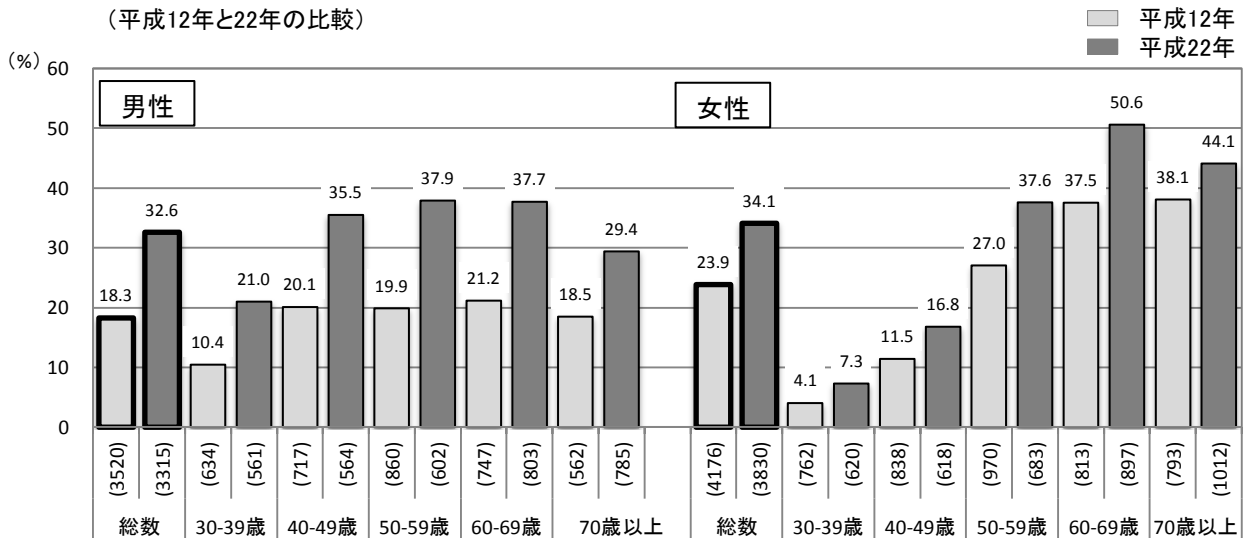
## 7. 血中コレステロールが高いといわれたことがある者の状況

医療機関や健診で「血中コレステロールが高い」といわれたことがある者の割合は、男性32.6%、女性34.1%であり、平成12年に比べて男女とも増加している。

また、血中コレステロールが高いといわれたことがある者のうち、過去から現在にかけて継続的に治療を受けている者の割合は、男性で35.5%、女性で45.4%である。

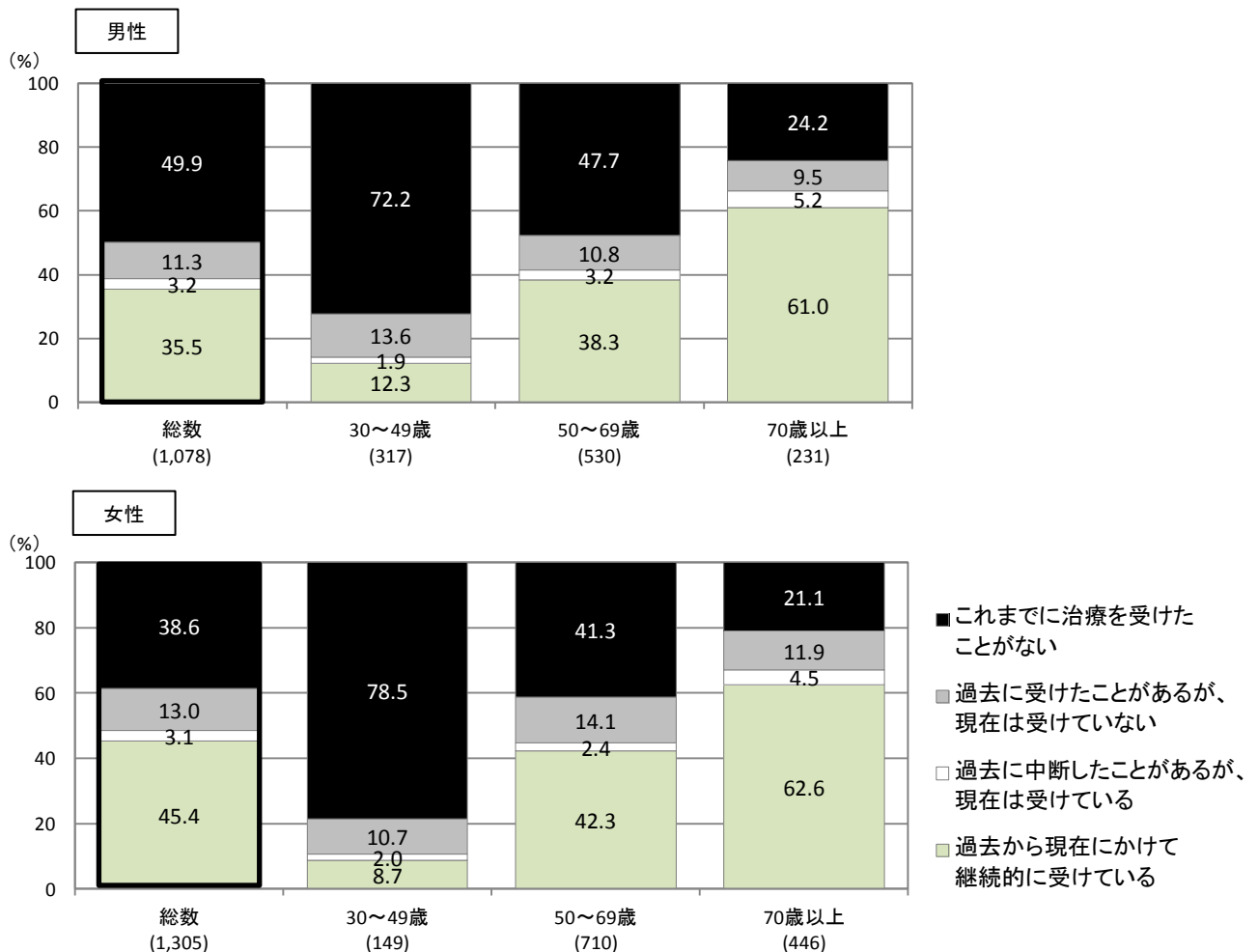
図11 血中コレステロールが高いといわれたことがある者の割合（30歳以上）

（平成12年と22年の比較）



※平成12年については、医師から血清コレステロールが高いと言われた者の割合

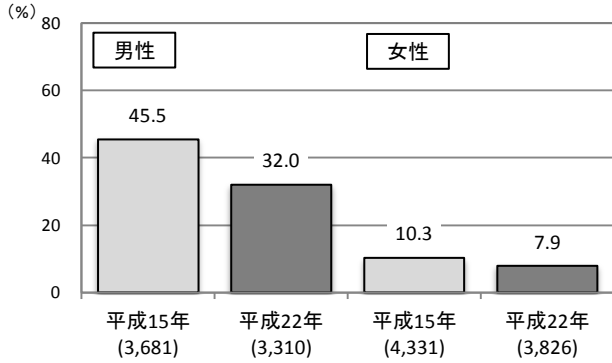
図12 血中コレステロールが高いといわれたことがある者における、治療の状況（30歳以上）



## 8. 循環器疾患の危険因子の状況

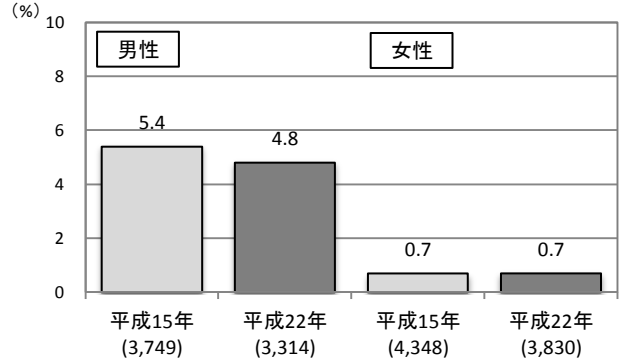
循環器疾患の危険因子の状況の変化について、平成15年に比べて改善しているものは、喫煙者の割合、食塩摂取量の平均値、運動習慣者の割合である。一方、悪化しているものは、カリウム摂取量の平均値である。多量飲酒者の割合、肥満者の割合については変わらない。

図13-1 喫煙者\*の割合(30歳以上)  
(平成15年と22年の比較)



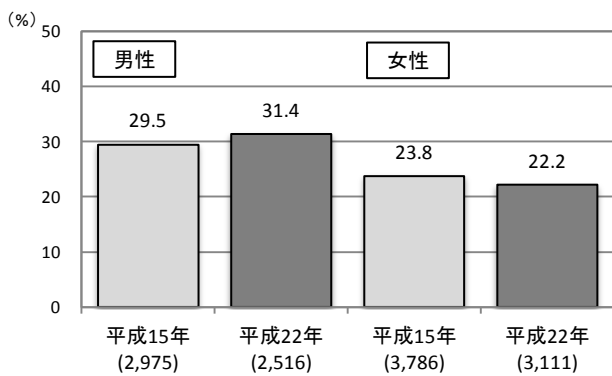
\* 喫煙者: 現在習慣的に喫煙している者(24ページ参照)

図13-2 多量飲酒者\*の割合(30歳以上)  
(平成15年と22年の比較)



\* 多量飲酒者: 1日平均純アルコール約60gを超えて摂取する者

図13-3 肥満者\*の割合(30歳以上)  
(平成15年と22年の比較)



\* 肥満者: BMI $\geq$ 25の者(12ページ参照)

図13-4 食塩摂取量の平均値(30歳以上)  
(平成15年と22年の比較)

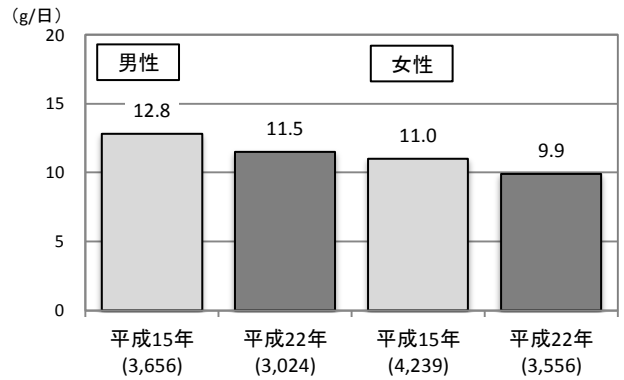


図13-5 カリウム摂取量の平均値(30歳以上)  
(平成15年と22年の比較)

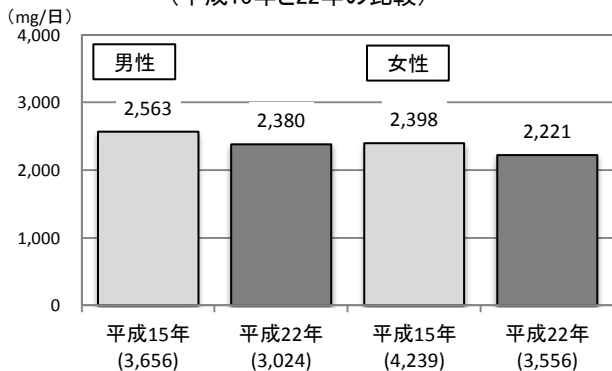
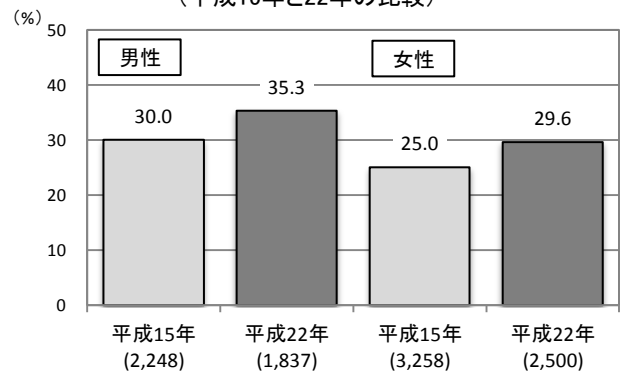


図13-6 運動習慣者\*の割合(30歳以上)  
(平成15年と22年の比較)



\* 運動習慣者: 運動習慣のある者(23ページ参照)



## 9. 家庭で血圧測定をしたことがある者の状況

過去1年間に家庭で血圧測定をしたことがある者の割合は、46.3%であり、年代別にみると70歳以上で最も高く62.9%である。

また、高血圧といわれたことの有無別に家庭での血圧測定状況をみると、指摘ありの者では72.0%であり、指摘なしの者では33.0%である。

図14-1 過去1年間に家庭で血圧測定をしたことがある者の割合(30歳以上)

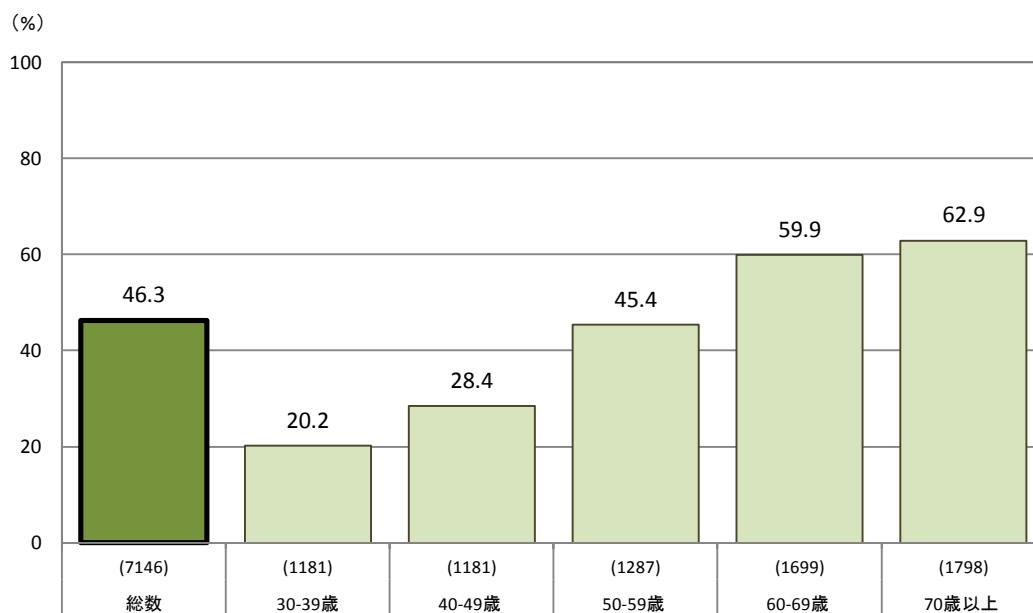
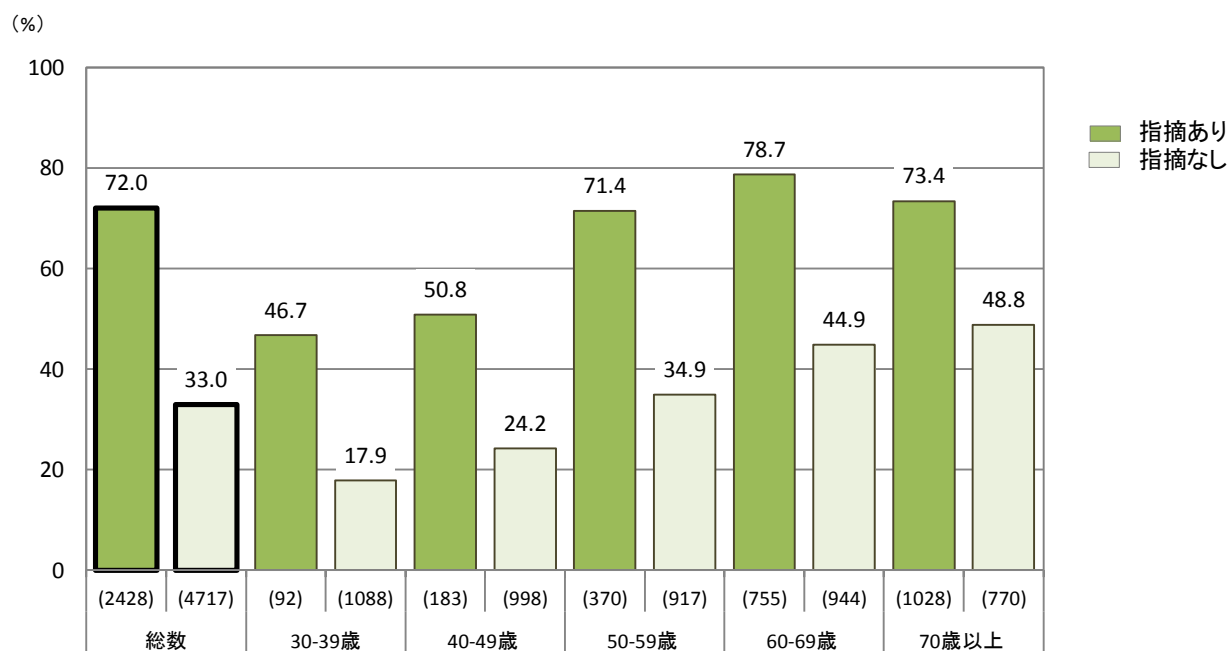


図14-2 高血圧の指摘の有無別、家庭で血圧測定をしたことがある者の割合(30歳以上)



## 10. 家庭で体重測定をしたことがある者の状況

過去1年間に家庭で体重測定をしたことがある者の割合は、男性78.7%、女性86.0%である。また、体型別に家庭での体重測定状況をみると、男性では正常及び肥満者で、女性ではいずれの体型でも8割台である。

図15-1 過去1年間に家庭で体重測定をしたことがある者の割合(30歳以上)

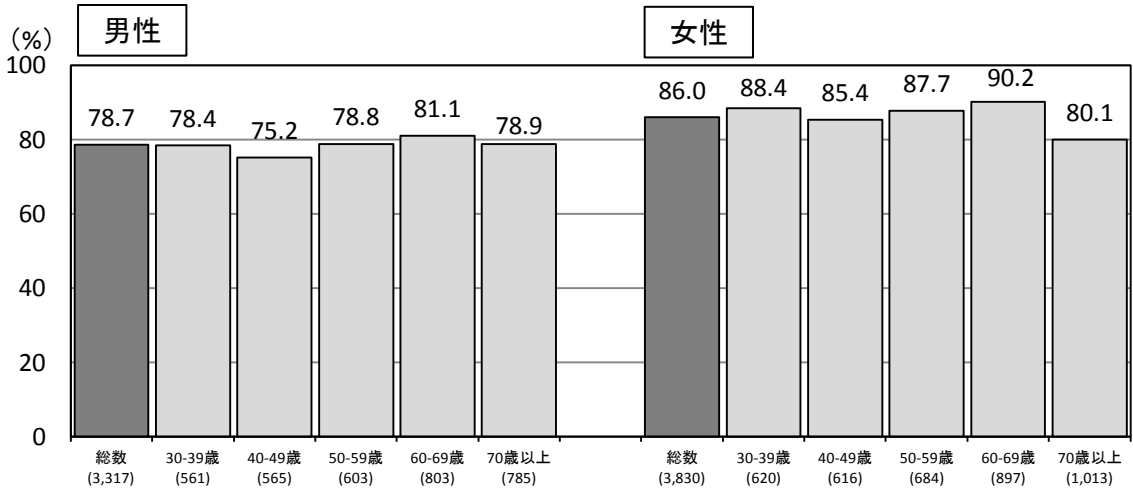
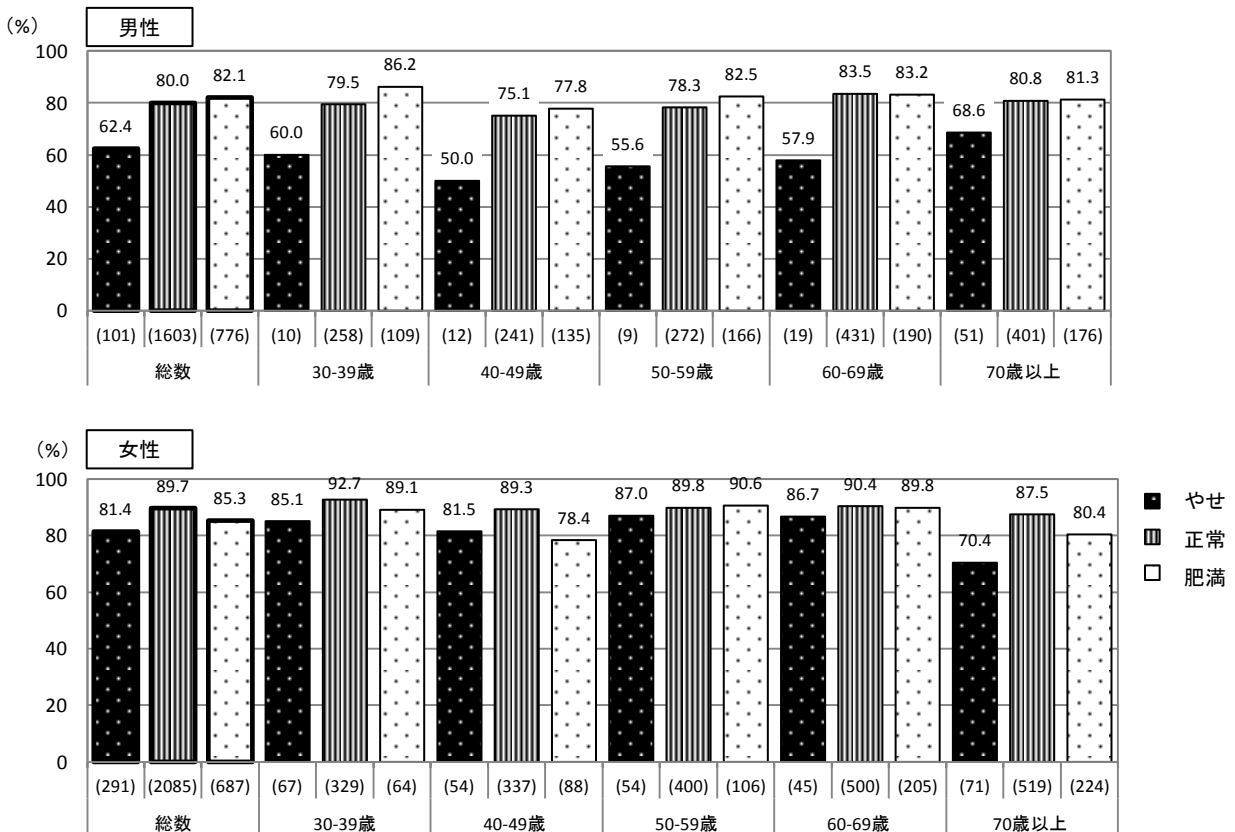


図15-2 体型別、家庭で体重測定をしたことがある者の割合(30歳以上)



※肥満度: BMI(Body Mass Index)を用いて判定  
 $BMI = \text{体重}[\text{kg}] / (\text{身長}[\text{m}])^2$ により算出  
 BMI < 18.5 低体重(やせ)  
 $18.5 \leq \text{BMI} < 25$  普通体重(正常)  
 BMI  $\geq 25$  肥満  
 (日本肥満学会肥満症診断基準検討委員会 2000年)

# 11. 生活習慣病の予防・改善のための取組状況

生活習慣病の予防・改善を目的とした生活習慣の改善に取り組んでいる者の割合は、男性50.4%、女性57.6%である。

生活習慣病の予防・改善のために普段の生活で心がけている内容で最も多いものは、男性では「食べ過ぎにないようにしている」(47.2%)、女性では「野菜をたくさん食べるようにしている」(57.5%)である。

一方、生活習慣の改善に取り組んでいない理由は、男女とも「病気の自覚症状がない」と回答した者が最も多く、男性では52.2%、女性では51.9%である。

図16 生活習慣病の予防・改善を目的とした生活習慣の改善に取り組んでいる者の割合 (%) (30歳以上)

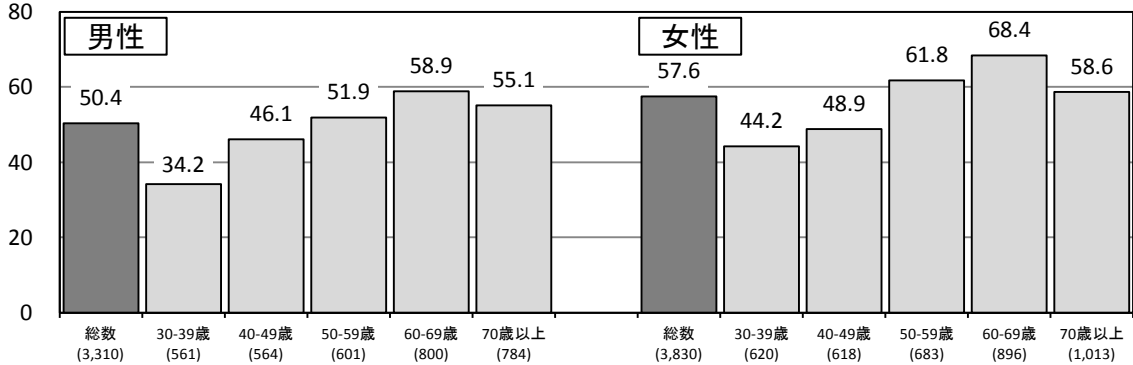


図17 生活習慣病の予防・改善のために普段の生活で心がけている内容 (30歳以上)

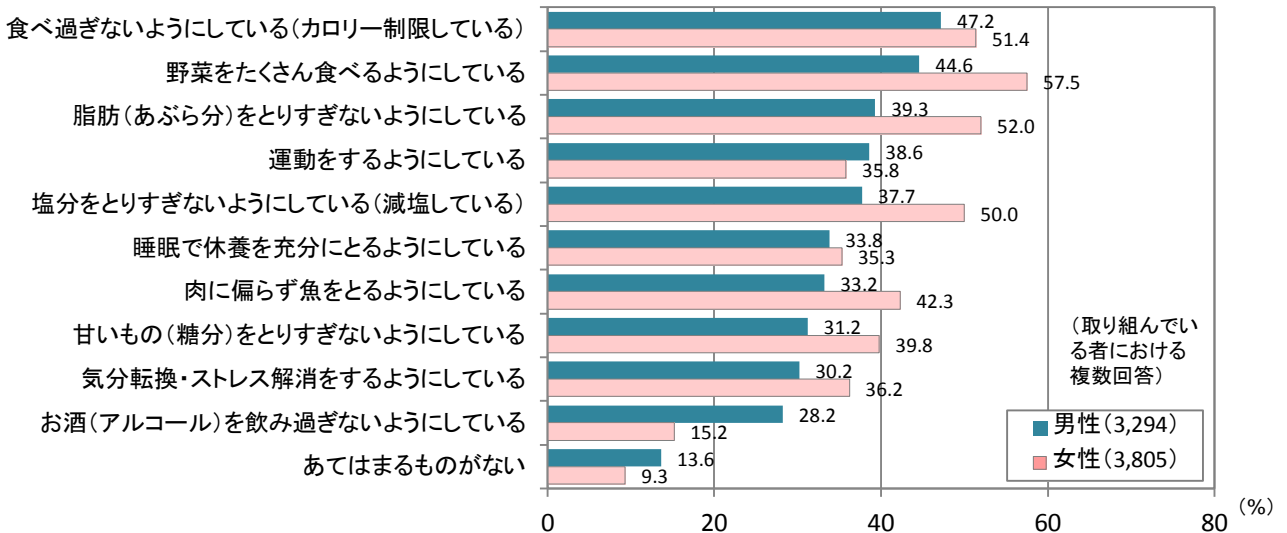


図18 生活習慣病の予防・改善を目的とした生活習慣の改善に取り組んでいない理由 (30歳以上)

